

県大 jiman

滋賀県立大学広報誌
第4号004
Jan. 2009



特集

県大のルーツを探る ～知ってるつもり!? 県大の歴史～ 2

県大年表 1950～2009

県大人語 インタビューで綴る県大の歴史

学生企画 県大検定 ～あなたの県大生度Check!!～ 6

これであなとも県大ツウ!

県大Report

Labo Report 8

県大jimanな研究室。今回は生活栄養学科 瀬本研究室です。

Class Report 8

あの授業はどんな授業?今回は看護学科の発達看護論演習です。

After School Report 9

クラブ・サークルの紹介。今回は轄部です。

県大 Book Review 9

今回は近江楽座の本を紹介します。

Staff Report 9

今回は琵琶湖塾を紹介します。

トピックス&インフォメーション 10

県大イベントカレンダー

「県大 jiman」について

琵琶湖と滋賀の自然をイメージカラーにし、胸を張って「自慢」する、明るく前向きに応援する気持ちをロゴにデザインしました。

 滋賀県立大学

The University of Shiga Prefecture

特集

知ってるつもり!? 県大の歴史 その生い立ちから今日までの歩み 県大のルーツを探る

1995年に開学した県立大学は今年で14歳。まだ若々しい大学ですが、実は地域と共に歩んできた長い歴史があります。今回は意外と知られていない、県大の歴史について紹介します。

1950

滋賀県立短期大学

工業科 [彦根市芹川町]
学芸科 [彦根市池州町]



学芸科校舎

1950

滋賀県立農業短期大学

農業科 [草津市西渋川]



農業科校舎

※ [] 内はキャンパスの所在



1956

滋賀県立短期大学

[彦根市・草津市]

工業部
化学色染科
機械紡織科
建築科
家政部
家政科
農学部
農業科



工業部校舎

1971

滋賀県立短期大学

[彦根市八坂町1900]

工業部
工業化学科
機械工学科
建築学科
家政部
家政学科
幼児教育学科
食物学科
農学部※
農学科
農業経済学科
農業土木学科
看護部
看護学科

※農学部キャンパスは草津市西渋川

1995

4年制大学に改組転換

県大歴史トリビア② ～シンボルマークの歴史～

短大のシンボルマークは、「大学」の文字の下に長形六角形を二個V字形に並べたもので、学生や教職員からデザインを募集して1950年に制定されました。

県大のシンボルマークは開学時に制定され、モチーフはSHIGAの「S」と琵琶湖の「波紋」「波」。3つの波は、滋賀の自然、文化、産業であり、また教育における知識、技術、そして人間性を意味しています。開学時のポスターには琵琶湖の固有種「琵琶湖大ナマズ」がキャラクターに採用されました。



県大開学時のポスター

県大歴史トリビア③ ～県大は未完成!～

1995年4月、開学初年度の県大は半分ほどしか校舎が完成していませんでした。新入生には工事が遅れているとされていたようですが、当初から完成は翌年8月の予定でした。当時の印象を一期生に聞くと「新設の大学らしく、一緒に成長していくと感じた。部活やサークルなど、新しい大学の基礎を作っていく楽しみを得られたと思う。」とのこと。今年電子システム工学科の新校舎も完成予定、県大はまだまだ成長中です。



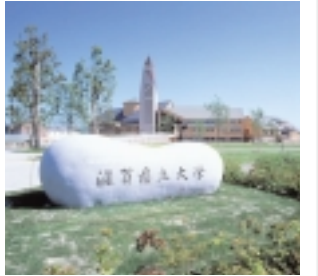
犬上川をはさんで左上は建設中の県大キャンパス、右は短大彦根学舎

2009

滋賀県立大学

[彦根市八坂町2500]

環境科学部
環境生態学科
環境政策・計画学科
環境建築・デザイン学科
生物資源管理学科
工学部
材料科学科
機械システム工学科
電子システム工学科
人間文化学部
地域文化学科
生活デザイン学科
生活栄養学科
人間関係学科
人間看護学部
人間看護学科



県立大学キャンパス

県大歴史トリビア① ～ファッションショーの歴史～

毎年湖風祭で行われるファッションショーが、実は短大時代から35年以上も続くイベントだと知っていましたか？

短大では学生の作品展としてショーを行っていました。民族衣装や花など毎年テーマを決め、最後にはウェディングドレスで登場するのが恒例だったそうです。

県大でショーが行われ始めたのは開学二年目。今では映像や音楽を駆使した学生主導のイベントとして湖風祭に組み込まれています。作品展としてのショーから、魅せるショーへ。ファッションショーの更なる進化に期待です。



ファッションショー1991



ファッションショー2008

TO THE FUTURE

- 1950 滋賀県立短期大学が、県立彦根工業専門学校と県立女子専門学校を母体として設置。工業科のキャンパスは彦根市芹川町、学芸科は彦根市池州町にありました。
- 1956 滋賀県立農業短期大学が設置。当時は戦後の農村復興期で、農業技術者の育成という社会的ニーズを背景としており、キャンパスは現在の草津市西渋川にありました。
- 1956 両短期大学が統合され、化学色染科、機械紡織科、建築科、家政科、農業科の5学科を持つ短大として再出発。工業系の学科構成は地場産業として盛んであった繊維工業を背景としており、また、家政科では家庭生活にかかわる衣食住を初め、保育、保健、家庭経営など家政学のあらゆる分野を総合的に学ぶことが目指されました。
- 1962 工業部、家政部キャンパスの彦根市八坂地区への移転開始。1969年には移転が完了し、ちょうど犬上川を挟んで今の県大の対岸あたりに設置されたキャンパスは、彦根学舎と呼ばれていました。
- 1971 看護学科を設置。全国的な看護師不足を背景に、一般教育を基盤とした広い視野と深い専門知識・技術の習得を目指して設置されました。これにより短大は工業、家政、農業、看護の4部構成となりました。
- この頃になると社会や産業構造の変化を反映して、学科の構成も開学当初から様変わりしました。工業部からは繊維関連の学科名称はなくなり、また、家政部には食物学科、幼児教育学科が設置され専門性が深められるとともに、アパレル産業の台頭などを背景に家政学科には家政専攻と被服専攻が設置されました。
- 1996 10学科2専攻、学生定員900名以上を擁する全国最大規模の公立短期大学にまで発展し、1996年3月までに一万六千名以上の卒業生を世に送り出しました。
- 【四年制大学へ】
このように、短期大学は地域に根ざした高等教育機関として、地域の発展に寄与してきました。しかし、教育研究の高度化や進学者の四年制志向の高まり、18歳人口の急激な減少などの教育環境の変化に伴い、教育研究体制の見直し求められるようになってきました。
- 1990 滋賀県立短期大学四年制移行整備懇談会が設置。「四年制大学を現短期大学において培われた学術研究の成果やその蓄積された資源の活用を図りつつ、設置することが必要」であり、県大の原形となる環境科学系学部、工学系学部、人文系学部、併設短期大学部(看護)の学部構成が提言されました。
- 1991 県立大学開設準備委員会(委員長 日高敏隆初代学長)が設置。大学の基本理念や教育課程の編成、入学者選抜の方法等について、開学までの3年半にわたり検討されました。
- 1995 県立大学が開学。キャッチコピーは「私は、どこにもなかった大学です」。文字どおり環境科学部と人間文化学部は全国の大学でも初めての学部名称であり、工学部、人間看護学部(開学時は短期大学部)とあわせて、ユニークな学部構成を持つ総合大学として出発しました。
- 1999 第一期生513人が卒業。大学院を開設。
- 2003 看護短期大学部を改組転換し人間看護学部を設置。翌年、人間看護学部の校舎が完成。
- 2006 県立大学が公立大学法人となる。
- 2008 県立短期大学と県立大学の統合同窓会「湖風会」が設立。
- 2008 工学部に電子システム工学科を設置。同時に環境科学部、人間文化学部の学科が再編され、4学部12学科となる。
- 2009 工学部電子システム工学科の校舎が完成。2009年3月までに五千人以上が県大を卒業(予定)。これからも県大人は続々誕生、そして成長を続けます。

県大人語

～インタビューで綴る県大の歴史～

1950年から始まる歴史のなかで、学生と共に成長してきた県立大学。その時々の学生生活などについて、卒業生と在學生にインタビューしました。

オシユラフノフ・アザマトさん
工学部1回生



県大の印象は？
広くて緑や生き物が多く、落ち着けます。でも、琵琶湖からの風がきつのがたまにキズ。
どんな仕事に就きたい？
これからの授業で興味がある分野の仕事に就いて、できれば海外で働きたいです。
あなたの「県大jiman」は？
自然環境が良く、それを生かした授業があります。県外からの人も多く、いろんな知り合いができます。

勝山 陽介さん
環境科学部3回生



学生生活でためになったことは？
勉強面では少人数のゼミやグループワークを通して、実際に使えるプレゼンスキルを学べたことです。また、野球部ではキャプテンになって、部員の様々な意見を聞き、人の気持ちを考えて行動できるようになったことです。
あなたの「県大jiman」は？
のびのびした環境だからこそ、個性が伸ばせるところ。

泉 浩二さん
環境科学部2000年卒業



学生時代の思い出は？
九州や長野にヒッチハイクし、駅やテントで宿泊しました。あと、夜は学食が閉まっていたので、ゼミ室でみんなで料理をしたり。
もう一回県大生に戻れるとしたら？
社会に出ると幅広い知識が必要になるので、海外をヒッチハイクで旅したり、歴史や民俗学とかいろんな授業を取りたい。
卒業後の今は？
子ども達への環境学習や里山保全の仕事をしています。自分たちが守っている場所で子ども達が遊んでくれている姿、やりがいを感じます。
あなたの「県大jiman」は？
ロケーションがいい！荒神山の借景が良い！鴨も魚もいる！

中川 富美江さん
短大看護部1973年卒業



学生時代の思い出は？
看護部は9時から16時までびっしりとカリキュラムが組まれていました。さらに病院等への実習も多く、また学費を稼ぐべく授業が終われば医院でのアルバイト、そして看護師国家試験への猛勉強など、とても忙しかったのですが、皆が「看護師になりたい」との志が高く、充実した学生時代でした。
後輩にエールを！
看護の道は深く、人間の生活そのものに関わる仕事です。学業はもちろんの事、いろいろな年代の人とのふれあいを大事にし、思いやりと慈しみの心を養い、やさしく接するという自身の人間性を磨いてほしいと思います。

種橋 清一さん
短大一期生 工業部1953年卒業
滋賀県立大学同窓会「湖風会」会長



学生時代の思い出は？
旧制工業学校建築科に入学した関係で、戦後の復興を見据え技術学科の延長として工業部建築科に進学、その頃に建築士が国家資格となった。建築士の資格試験はとても難関で、不安に思いながらも一生懸命に勉強しました。「他の学科には資格試験がなく不公平だ」と思ったこともあります。卒業後に一級建築士の試験を突破したときの感慨は今でも忘れられません。
後輩にエールを！
学業を頑張るのは当然ですが、人間関係もおろそかにせず友人との親睦を深めて、しっかりした人間性を築いて貰いたい。また、学校に大きな誇りを持つことが大切だと思います。

西口 佳那さん
人間文化学部3回生
モンゴル国立大学へ留学中



モンゴルでの留学生活は？
学んでいる言語を話す国へ実際に行ってみたいと思い、2回生の夏に旅行で訪れ、でっかい自然に魅了されました。普段は首都（ウランバートル）で大学に通っていますが、田舎での遊牧生活もゲルに泊まったり家畜を追ったり、めっちゃ面白いんです。モンゴルでの経験が生かせる仕事ができればと思っています。
あなたの「県大jiman」は？
琵琶湖や山が近くにあるので季節を感じる事ができる場所。大学内を歩けば誰か知り合いに遭遇してしまうような、アットホームな感じも好きです。

酒井 雄大さん
人間文化学部2007年卒業



県立大学の第一印象は？
良い意味でだだっぴろい。自ら何かできそうな環境とも思った。
もう一回県大生に戻れるとしたら？
たくさんモノ作りがしたい。あと苦手な語学をもっと学びたい。
卒業後の今は？
大阪でプロダクトデザイナーとして働いています。今の会社が何をしているのか知りたい一心で、学生当時から週3、4日程度、大阪までインターンに通っていました。
あなたの「県大jiman」は？
密接な人間関係が築けることや、気を落ち着かせることのできる場所なので、外で得たものを整理できる環境です。

沼口 穰さん
県大一期生 工学部1999年卒業



学生時代の思い出は？
「ずっと楽しかった」の一言です。1期生だったのでサークルや同窓会など色々つくった楽しさがありました。鴨部を立ち上げたのも思い出の一つです。（詳しくはp9）
もう一回県大生に戻れるとしたら？
社会にでて、もっと勉強・学問しておけばよかった…と思うことがしばしばです。（たぶん?!）目的意識を持って勉強します。それと、もう一度、鴨部に入ります。
卒業後の今は？
携帯電話のコンデンサーや金属配線など電子材料の開発をしています。何か一つ、技術者として大きな開発に携わりたいです。
あなたの「県大jiman」は？
仲間や先生と強いつながりがあることです。

大辻 房枝さん
家政部1953年卒業



学生時代の思い出は？
当時は同じ敷地（池洲町）に高校と短大の校舎があり、正面玄関に入って左に高校、右に短大がありました。その後、短大の校舎は増築して継ぎ足し、継ぎ足していたので、入学当初は校舎内で迷った程です。お城が近かったのも、何かにつけ、城山で集会しました。（当時、博物館もなく自然に近い状態でした。）
後輩にエールを！
栄養学や病気の予防など生活に関する様々な情報がテレビなどから発信されますが、それらは必ずしも正しいとは限りません。大学で学んだことを仕事に生かすだけでなく、情報を正しく判断して地域に伝える役割も担ってほしい。

野口 恭子さん
看護短期大学部2002年卒業 2008年に人間看護学部3回生へ編入



なぜ県大に入りなおしたのですか？
スキルアップ・キャリアアップをしたいと思い、短大卒業後に病院勤務を経て人間看護学部3回生へ編入しました。地域看護に興味があり、視野を広げたいと思ったことも理由の一つです。
短大の卒業後は？
グループワークで身につけた「自分で考える力」が実際現場で生かされました。積極的に考える姿勢から、患者さんへのよりよい看護を考える力が養われたと思います。
県大の印象は？
短大より学生数もかなり増え、より高度で専門性の深い教育を受けていると感じます。
これからの目標は？
看護師経験を生かして、地域で看護の力を必要とする方々と医療の「橋渡し」ができるようになりたいです。

中村 久郎さん
農学部1954年卒業



学生時代の思い出は？
戦後の食糧難時代だったので、短大には現場で指導できる技術者の養成が期待され、一回生から難しい専門科目を忙しく学びました。スクールバスで農家やダム工事の現場へ泊まり込みで研修に行くなど、新進の学術研究と共に地域密着の雰囲気がありました。
後輩にエールを！
環境を考えるときも農業を忘れてはいけません。琵琶湖と農地は水で繋がっており、環境を守る土台は農業の理解にあると思う。「素手で土を掴む」感性を忘れずに、琵琶湖や地域に接してほしい。

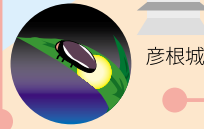
地域編

県大周辺に足を伸ばせば、そこには・・・?

★★★
犬上川の蛍を見た
日が暮れたら犬上川へ行ってみよう！蛍の光が1日頑張ったあなたの心を癒してくれます。
見頃：6月中旬～下旬

★★★★
荒神山に登った
県大からも四季の変化が楽しめる荒神山。実際に登ってみると、山頂付近からは琵琶湖を望むことができ、夜にはきれいな星空があなたを待っています！

滋賀県立大学



彦根城



多賀大社

★
アートフェスタ勝負市に行った
花しょうぶ通りをメインに行われます。作家さんによるアートな作品がたくさん！県大生のライブも楽しめます♪
開催日：6月7日・8日(2008年)



★
万灯祭を楽しんだ
多賀大社の境内に掲げられた無数の提灯は圧巻！多賀大社で縁結びを願った後は、名物・糸切り餅を食べて帰ろう。
開催日：8月3日～5日(毎年)



生活編

ここを抑えて、さらに★を獲得しよう！

★
風、雪に怒りを覚えたことがある
琵琶湖に近いところは特に風が強いんです。風が強い分、雪が降ってもそれほど積もりませんが、通行には十分お気をつけください。



★★★★
バルブもなかを食べたことがある
バルブの形をしたお菓子。あんこが程よい甘さで、形がとてもかわいい。お土産におもしろいかも。銀座(彦根)の風月堂で買えます。



★★★
カロムのルールを知っている
指で駒を弾いて、ポケットに落とすゲーム。かつては日本全国にあったが、彦根では遊び続けられ残っています。ぜひ、練習してカロムの全国大会を目指してみてもいいですか。



★★★
ベロタクシーに乗ったことがある
自転車とタクシーが一緒になった乗り物。彦根城周辺を走っています。彦根の街に合ったデザインも開発されました。※運行期間は3月1日～12月25日です。詳しくは、<http://gokan-seikatsu.jp/velo/>



★★★
彦根梨を食べたことがある
彦根市・稲枝が産地です。梨の季節でなくても、「ナチャップ」というケチャップやドレッシング、「梨の華」というジャムで彦根梨を味わえます。地産地消っていいですね。



あなたの県大生度は・・・?

入門

★0個～15個のあなたは県大入門生！
このページでチェックしたら県大生度向上間違いなし☆

皆伝

★16個～30個のあなたは県大免許皆伝！
未体験・未経験スポットに足を運んで、目指せ県大師範！

師範

★31個～41個のあなたは県大師範！
もう何を聞かれても怖くない!?
どんどん県大をjimanしよう♪

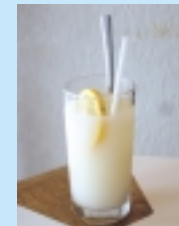
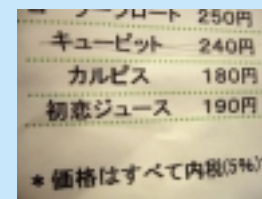
学内編

とりあえずは、学内のことで腕試し！

★
カモに餌をあげたことがある
県大の環濠にはカモとアヒルが優雅に泳いでいます。ついつい餌をあげたくなりますね！



★★★★
『初恋ジュース』を飲んだ
カフェ「ピアニッシモ」には『初恋ジュース』があります。その味はまさに初恋の味!かは自分で試してみよう!



★★★
湖風祭のエコプロジェクトに参加した
県大の学祭「湖風祭」ではMyはし運動、ゴミ分別の啓発、DRP (Dish Return Project)、環境村の設置など、独自のエコプロジェクト活動を行っています。

★★★
「こびわこ」の存在を知っている
南駐車場に向かう途中に、琵琶湖の形をした池「こびわこ」があるのを知っていますか?夏には蓮の花がたくさん咲いていて、見応え充分です!

★★★
荒神山ロックフェスに行った
去年の荒神山ロックフェスのレポートがp11に載っています。

★★★★
校歌を歌える
2008年にできた県大の校歌を歌えますか?歌えない人は、HPにアクセスして覚えよう!
大学のHP>大学インフォメーション>大学概要>校歌



環境戦隊 ゴミレンジャー

キャラクター編

知ってる? 県大周辺のキャラクター

1. ★★★
 生活デザイン学科の長尾さん(当時2回生)のデザインだよ。
県大の生協のキャラクター。

2. ★
 彦根藩二代藩主の直孝公を雷雨から救ったと言われる猫がモデルです。
「ゆるキャラ」の代表ともいえる彦根のキャラクター。

3. ★★★
 ダム建設が得意だよ。
県大生御用達、某大型ショッピングセンター専門店街のキャラクター。

4. ★★★
 三成様の家臣、島左近がモデルである。
ひこね「街の駅」寺子屋力石のマスコットキャラクター。

5. ★★★
 特技は検地じゃ。
4.と同じ所のマスコットキャラクター。

6. ★★★
 井伊直弼の次女、弥千代姫がモデルでございます。
2.に片想いをしているらしい。

正解はp7左側



あなたの県大生度Check!!
あなたは県大のどのくらい知っていますか? 知ってるあなたも知らないあなたも、この検定を受けてみよう!

★を数えて、あなたの県大生度をCheck!!

1. とんがりケンちゃん
2. ひこねちゃん
3. ピパッチェくん
4. しませこちゃん
5. いしだみつにゃん
6. やちにゃん

After School Report

鴨部 壮絶な歴史とともに、復活!!!

【鴨部(かもぶ)】 鴨やアヒルの世話をする県大公認のサークル

鴨部の歴史は県大に環濠(※)ができた頃に遡ります。環濠が完成した当初は生物がいませんでした。そこで鴨部の初代部長の沼口さん(p4参照)が金魚を放ちましたが、金魚は環濠に住み着いたブラックバスに食べられてしまいました。次に、バスより強い魚ということで鯉を一匹だけ放ちました。しかし、後に大学が1tもの鯉を環濠へ放流したので、自分たちの鯉がどれか分からなくなってしまったのです。

バスに食べられず、存在感もある生物を放とうということになり、鴨のヒナを購入しました。しかし、そのヒナもいつの間にか…。なぜ?それは当時の県大には野犬や狐がいて、捕まえられてしまったからです。

どうしたら襲われずに成長させられるか?そこで思いついたのが、環濠の橋の下に柵を作り、その中で育てるという方法でした。ヒナは順調に育ち大人になりましたが、また野犬に襲われる事件が起きました。襲われた時に水へ逃

げるのではなく、陸へ逃げる鴨になっていたことが原因でした。この問題の打開策として水面に小屋を建てることになり、これにより、鴨たちは環濠で優雅に泳ぎ始めることができたのです。

しばらくすると、水中や芝生の上に白く丸い物が現れました。そう卵です。しかし鴨たちは自分で育てなかったため、卵はカラスに狙われ放題でした。そのため代わりに鴨部員が孵化機で孵化をさせました。「県大鴨」が誕生した瞬間です。

このように鴨部は壮絶な!?歴史を持つサークルです。最盛期には20羽もの鴨がいたそうですが、5年ほど前から鴨の数は減ってしまいました。そこで、去年から鴨部のメンバーが立ち上がり、活発に活動し始めています。

県大jmanは鴨部を応援します。

鴨部ホームページ(近日開設予定)

<http://ceram10.mat.usp.ac.jp/~seraken/kamo/index.htm>

※県大の共通講義棟を円形に囲む堀。水は琵琶湖から揚水。



Staff Report

琵琶湖塾



県立大学が主催する琵琶湖塾では、ジャーナリストの田原総一郎さんを塾長に、多彩なジャンルの講師陣を招いて様々なテーマを討論しています。

去る10月29日は、外交ジャーナリストの手嶋龍一氏を講師に迎え、終了後には学生とのディスカッション「終バスまで生トーク」も開催されました。日米の政治・経済や、就職などについて、ご自身の経験を交えたお話を伺うことができました。

「やりたい事ははっきりしない学生が多いのでは?」という学生からの質問に、手嶋氏は「今は焦って見つける必要はない。これから嫌でも社会の一員となることにより見つけられます。」と仰り、また、田原塾長の「ウン・ドン・コンが必要だ。(まずは運、そして鈍感さ、つまりは馬鹿でありなさい。最後に根気強く頑張りなさい)」という言葉には、「なるほど!!」と感じさせられました。

琵琶湖塾では、普段はあまり触れることのない話題について学ぶことができます。興味を持った方はぜひ参加してみれば?きっと自分の世界観が広がるはずですよ。

琵琶湖塾HP <http://www.biwakojuku.com/index.php>

※滋賀県立大学生は参加無料(事前申込み必要)

Kendai Book Review

「近江楽座のススメ-学生力が地域を変える-」

近江楽座学生委員会編著

株式会社 ラトルズ(2008/12)

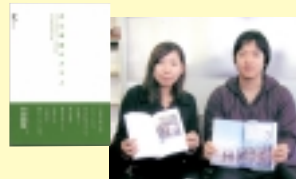
学生が主体となって地域活性化に貢献する実践活動を行う「スチューデントファーム

「近江楽座」-まち・むら・くらしふれあい工舎」が本になりました。

平成16年にスタートして以来、多くのプロジェクトが県内各地で活動を繰り広げてきましたが、これまでの活動を学生の目線でまとめるとともに、編集やデザインも学生中心で行い、「近江楽座のススメ-学生力が地域を変える-」として発刊しました。

古民家の再生や廃プラスチックのリサイクル活動など現在も活動を継続している12チームのプロジェクトストーリーを中心に描かれており、活動の苦悩や成長などの記録がビジュアルに表現されています。

読み進むうちにタイトルにある「学生力」に圧倒されること間違いなしです。学生や教員など大学関係者だけでなく、高校生や地域でさまざまな活動をしている方にもお薦めの一冊です。A5版、224ページ。1890円。全国の書店で発売中。問い合わせは、滋賀県立大学地域づくり教育研究センター(TEL:0749-28-8612)まで。



Labo Report

人間文化学部生活栄養学科・灘本知憲研究室

身近な食品や植物が持つ力を発見する

灘本先生の専門分野は食品栄養学と食品生化学で、主に2つのテーマを研究しています。

一つは食品が元来もつ性質、漢方で言う「性」についての研究です。例えば、柿を食べると手足の先が冷え(冷性)、生姜を食べると温まる(温性)と言われていますが、経験学である漢方の考えを科学的に実証する研究を進めています。食品を実際に食べて体温や血流などの変化を計測する実験を学生達と一緒に進めており、ココアの体温低下を防ぐ働きを卒業研究のテーマにした学生もいるそうです。企業との共同研究も盛んで、「今では性質の研究から、冷え性の研究になってきました」と灘本先生。

もう一つは、野草(雑草)のもつ抗菌や消臭の作用です。「雑草魂と言うくらいだから、何か強い作用があるはずだ」と考えられたそうで、実際に野草には傷つけられたり、他の生物から攻撃された際に抵抗する力が強いものが多いそうです。県大の敷地内に生えている野草を調べつくし、今では学生達も草の名前や扱いに随分と詳しくなったとのこと。この研究の成果は思わぬ方向へと展開しつつあり、歯を削った後の詰め物に配合できないかと、歯科医療の分野での活用について検討されています。

先生の指導方針は「口先だけではダメ、とにかく動きなさい」。また、「実験系を考えるとところから始めるので、先生のアイデアがいつも勝つとは限らない」と学生の知恵やアイデアを大切に、学生達と一緒に楽しみながら研究されています。



研究室DATA

教授: 灘本知憲

研究室: D3-206

E-mail: nadamoto@shc1.shc.usp.ac.jp

ゼミ生:(4回生)川上由美子、中西晶子、花房まなみ、松村佳奈、横井健二

(M1) 有山 愛

(M2) 宮森沙耶香、中木真弓、方 暁

ゼミ生から一言:「野草や冷え性といった身近なものですが、研究を進めてから初めて知ることがたくさんあります。」「ゼミでの研究はそれぞれですが、みんなで食事や旅行など、わいわい楽しんでいます。」

Class Report

地域医療の担い手を育てる

発達看護論演習Ⅲ

人間看護学部専門科目

担当教員: 人間看護学部 横井 和美 講師

発達看護論演習Ⅲは人間看護学部2回生の必須教科のひとつです。「人間の発達」をベースに、成人期の人々の望ましい成長発達を考え、健康を回復し通常に生活できるよう支援するために必要な知識と技術を習得します。それに加えて、病気の治療に対する患者さんとその家族の反応を読み取る視点やアセスメントする力・援助の方法について学びます。

この授業の特徴は、病室を模した演習室で授業が行われることが多い点です。療養生活で実際に使われている機器を用い、援助方法を授業の中で学生自身が学びます。

1回生の演習では年間を通じて主に看護の基礎的なケアの知識と技術を学びますが、2回生の演習では、医療の現場でも必要となってくる既習の知識と技術の応用力が求められ



◀グループワークの様子

▶演習の様子

ます。また授業の中では毎回、学生は5~6名ずつに分かれたグループワークでテーマを設定してプレゼンテーションを行い、意見を交換することで自分たちの考えを深めます。

横井先生によれば「実際にそうした機器や援助方法に自らが触れることで、体験と知識をリンクさせて感性を養ってほしい」とのこと。医療のなかで人間と機器の両者がどこまでできるのかを学ぶことで、患者さんの援助に「何が出来るだろうか?」ということを考え、常に問題意識を持つことで学生一人ひとりの看護観を築き上げるということも大きな目的です。

こうした授業を通して将来の地域医療の担い手・専門職者として、医療の力を必要としている方々の力になれる看護職者の養成を目指しています。

Topics & Information

TOPICS 01

彦根3大学の
大学間連携
コミュニケーションに
調印

2008年11月12日、大学サテライト・プラザ彦根において、滋賀県立大学、滋賀大学、聖泉大学の3大学が、地域課題の解決、学生力の活性化、教育・研究の充実・高度化、大学運営などについて連携して取り組むとした、彦根3大学・大学間連携コミュニケーションに調印をしました。

調印は、曾我滋賀県立大学長、成瀬滋賀大学長、井深聖泉大学長が行い、引き続き行われた記者会見において、教員・学生が組織的に力を発揮して、彦根ブランド・大学ブランドの相乗的向上を図るなど、3大学の連携について熱い期待が述べられました。

今後は、新たに立ち上げる連携協議会の中で、社会人向け講座、「彦根学」の創設や単位互換、国際交流、学生力の活性化、大学運営の連携などについて検討される予定です。



▲成瀬滋賀大学長(左)、曾我滋賀県立大学長(中央)、井深聖泉大学長(右)

TOPICS 02

県大で鳥人間
学生交流会を
開催

本学の鳥人間研究会(COOL SWEETS)が県立大学を会場に鳥人間学生交流会を開催しました。

2008年9月14日に北海道から九州まで全国42校から45チーム491人の鳥人間が県立大学に集まり、チーム運営や機体設計・製作における情報交換など、2日間にわたるチーム間の交流をあげました。

当日は、学生チーム等によるプレゼンテーションや班別交流会、懇親会のほか、北海道で民間主導のロケット開発に携わる植松努氏による特別講演「思うは招くく夢があればなんでもできる」も開催され、キャンパスは全国から集まった学生達で賑わいました。

次回の鳥人間コンテストで、県大の機体も大空を舞ってくださることを目指して、ガンバレ、COOL SWEETS!

▼懇親会の様子



TOPICS 03

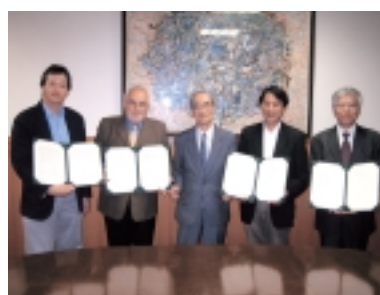
アウグスブル
グ大学と覚書
締結

2008年9月29日、ドイツ連邦共和国のアウグスブルグ大学からハヌッシュ副学長およびレツラー教授が県大を訪問されました。

1教授が県大を訪問されました。アウグスブルグ大学とは従来から交流がありますが、今回は両大学間の学術交流に関する協定の締結をめざして、教育および研究の交流に努める旨の覚書を締結しました。

アウグスブルグ大学は環境と経済社会のあり方をめぐる先進的な教育をしており、また、研究を企業活動をも巻き込みながら進めている比較的新しい総合大学です。

本学とアウグスブルグ大学は長期的に相互交流による成果が期待できることから、これを機会に教育および研究面での基本的な交流関係を結ぶ具体的な協議に進みたいと考えています。



▲左から：レツラー教授、ハヌッシュ副学長、曾我学長、仁連環境共生システム研究センター長、土屋副学長

TOPICS 04

中庭に
テラスが誕生

2009年3月、中庭にテラスが設置されます。このプロジェクトは、学生や教職員の大学生活をより充実させるため、人間文化学部生活デザイン学科の学生と生協、大学事務局の協働により進められています。

テラスは既存の施設を生かして設計されており、屋外との連続性を出すため、中庭だけでなく屋内の食堂にもテラス部分が設けられます。また、地産地消を考えて滋賀県内産の木材を中心に使用されています。

これまでは昼休みに食堂が混雑しがちでしたが、このプロジェクトにより座席数が増え、晴れた日には屋外のテラスも利用することができそうです。木のぬくもりを感じられる空間で、ゆったりとランチを楽しんでみませんか。



▲生活デザイン学科の学生・教員



テラス(屋内部分)の模型

TOPICS 05

自転車タクシー
「彦根リキシャ」
が完成

学生のプロジェクトチーム「リキシャ」が自転車タクシー「彦根リキシャ」を製作しました。

リキシャのプロジェクト「彦根人力舎」彦根地場産業発信計画」には33名の学生が参加し、仏壇製作など彦根市の地場産業に対する認知度を高め、地域ブランド形成をバックアップすることを目的として活動してきました。

このプロジェクトの始まりは、自転車屋のご主人が彦根の街並みに合うペダタクシーを創りたいと考え、そのデザインについて県大に相談にいられたことです。建築や仏壇等の職人や他の団体と協力して製作に取り組みました。

彦根リキシャの定員は大人2名。茶室や人力車をイメージしてデザインされた畳敷きの客席は、職人の技が随所にみられる美しい仕上がりです。



受賞・表彰

環境マネジメント事務所

平成20年度家庭・学校の省エネコンテスト 学校部門経済産業大臣賞

廃棄物ハスターズ

第6回全国大学生環境活動コンテスト 進ケランプリ

環境科学研究科Aチーム(代表 川井穂安上城・穂見寺再建学生競技設計 最優秀賞)

人間文化学部2回生 東知余美さん

2008年NDK新人デザインコンテスト NDK50周年特別賞

工学部4回生 伊熊友梨さん

日本材料学会関西支部若手シンポジウム 関西支部長賞(優秀ポスター賞)

大学院工学研究科博士前期課程2回生 西邑伸一さん

第15回軽金属学会秋季大会 優秀ポスター発表賞

人間文化学部2回生 南和宏さん

Crastina Award 2008 特別賞

EU-Japan Design Competition 2008 最優秀作品賞

OPUS DESIGN AWARD 2008 優秀賞

トムリーン・ナムジム名誉教授

外国人旭日重光章

大学院工学研究科博士前期課程2回生 稲村茂男さん

日本機械学会関西支部技術情報誌「TECHNOLOGY」技術情報交流会(大学・高専研究発表会)優秀ポスター発表賞

工学部 中川平三郎教授

(社)精密工業会フェロー

(社)砥粒加工学会関西支部功労者表彰

国際教育センター 小栗裕子准教授

大学院工学研究科博士前期課程1回生 野村勝矩さん

第4回ナノサイエンス・ナノテクノロジー(阪大国際シンポジウム)若手研究者ベストポスター賞

地域産学連携センター 安田昌司教授

2008日本感性工学学会賞 技術賞

人事異動

着任

安田 昌司 教授
地域産学連携センター

廣川 能嗣 教授(材料科学科)
工学部

堂満 華子 助教
環境科学部

退職

地域産学連携センター
人間文化学部人間関係学科 教授 松居 祐一

事務局 理事長補佐 講師 三木 逸郎

荒神山ロックフェス'08レポート

県大の三大イベントをご存じですか? 初夏の湖風夏祭(うみかぜなつまつり)、秋の湖風祭、そしてもう一つ、真夏には「荒神山ロックフェス」があるんです。今回は荒神山ロックフェス'08をレポートします。

ロックフェスは去年の8月23、24日に県立大学センター広場で開催されました。ロックフェス実行委員長の橋本裕介さんに楽しみ方を聞いてみると、「いろいろなジャンルの音楽があるので自分の好きなものを探求して!」とのことでした。

ところで、このロックフェスは学生主体で運営をしているのです!それだけに苦労も多く、「各部署の連携をとるのが大変だった。だから、週に3回の小会議を設けて、みんなが言い合えるフラットな関係をつくった(橋本さん)」とのこと。また今回は、地域の人にもっと知ってもらおうと、広報も兼ねてごみ拾い活動をしたそうです。その甲斐もあって新聞で活動を取り上げられ、ごみ拾いをしている時に「おつかれさん」と声をかけられたそうです。

今まで私はロックフェスに馴染みがなかったのですが、青空の下で聞く音楽はとて新鮮でした。そして何より、学生主体でひとつのイベントを成し遂げるのは、すごいと思います。まさに今回のロックフェスのコンセプト「音楽同盟」音楽での人間の和」ですね。



県大 event calendar



The University of Shiga Prefecture

2月	2	月	大学院人間看護学研究科人間看護学専攻 一般選抜試験
	4	水	後期定期試験開始
5~9	木~月		人間文化学部生活デザイン学科卒業研究展覧会
	9	月	後期授業終了
	16	月	後期定期試験終了
16・17	月・火		環境科学部環境建築デザイン学科卒業論文発表会、卒業制作発表会
	19	木	大学院人間文化学研究科生活文化学専攻 (博士前期課程) 一般選抜試験
	19	木	大学院人間文化学地域文化学専攻・生活文化学専攻 (博士後期課程) 一般選抜試験
	20	金	大学院人間文化学研究科地域文化学専攻 (博士前期課程) 一般選抜試験
	25	水	一般選抜試験前期日程
26・27	木・金		大学院環境科学研究科環境動態学専攻、環境計画学専攻 (博士前期課程) 一般選抜試験
	27	金	大学院環境科学研究科環境動態学専攻、環境計画学専攻 (博士後期課程) 一般選抜試験
	27	金	大学院工学研究科先端工学専攻 (博士後期課程) 一般選抜試験

3月	12	木	一般選抜試験後期日程
	21	土	学位記授与式、春季休業開始
	下旬		リサイクル市

4月	5	日	入学式(午前)、新入生オリエンテーション(午後)
	6	月	全学オリエンテーション、春季休業終了
	7	火	前期授業開始
	中旬		定期健康診断(学部3回生以上、大学院生)

5月	上旬		第3回運動会<予定>
	中旬		定期健康診断(学部1・2回生、大学院生)
	下旬		春期公開講座(毎土曜日 5週間予定)

6月	6	土	開学記念日
	20	土	湖風夏祭<予定>
	下旬		ゲル(モンゴル式住居)展示開始

7月	4	土	体育会「夏遊戯」<予定>
	23	木	月曜日の通常授業
	24	金	水曜日の通常授業
	25	土	調整期間(補講)開始(~30日) ※ただし、7月27日(月)は通常授業
	30	木	前期授業終了
	31	金	前期定期試験開始

滋賀県立大学の広報誌「県大jiman」もついに4号目。滋賀県立大学が持つキラリと光る「jiman」なところを紹介する広報誌です。

今回は意外と知られていない滋賀県立大学の歴史をクローズアップしました。約半世紀のルーツをもつ県大から、様々な場所で活躍する「県大人」が巣立っていきました。これからも「人が育つ大学」を標榜する滋賀県立大学の姿を見て欲しいと思っています。

今後も「県大jiman」をよりよい広報誌に育てていくために、みなさんのご協力をいただきたいと思いますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

学生広報スタッフ大募集！

広報誌作成グループでは、県大jimanの作成に参加してくれる学生を募集しています。私達と一緒に、県大の素敵な「jiman」を紹介してみませんか。デザインの専門知識がなくても大丈夫です。興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

From 広報スタッフ

広報をしている認知度上昇中です♪ (人間看護学部2回生 林 怜史)
初取材は緊張！でも楽しかった!! (環境科学部3回生 二瓶 莉苗)
話を聞くおもしろさを実感。 (人間文化学部2回生 田辺 京子)
スタッフ初参加だけでも楽しかった！ (人間文化学部2回生 藤井 歩)
これからの県大の「歴史」に期待 (工学部 河崎 澄)
学生スタッフ増えてうれしいです (事務局 矢野 圭昭)

そのとき鴨子は動いた！ (環境科学部3回生 浅井 千穂)
多くの人に読んでもらいたいです。 (環境科学部2回生 清山 風人)
日々勉強、次号も頑張ります。 (人間文化学部2回生 寄川 弥生)

ますますパワーアップ！今後も期待！ (人間文化学部 佐々木 一泰)
取材にご協力頂いた皆様に改めて感謝 (事務局 高田 俊裕)

滋賀県立大学広報誌「県大jiman」第4号

発行/滋賀県立大学広報委員会

編集/広報誌作成グループ

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

Tel.0749-28-8200 Fax.0749-28-8470

URL : www.usp.ac.jp

E-mail : webmaster@usp.ac.jp

発行日/2009年1月31日



植林紙



エコパルプ



中性紙



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用